

田島の音次世代つなぐ

しゃんぎり保存会会長 南会津の小椋さん



「しゃんぎり演奏を通じて郷土愛を育みたい」と話す小椋さん

地域の文化財を守る

しゃんぎりは屋台歌舞伎の幕あいに演奏され、田島祇園祭の風物詩として継承されてきた。昭和初期には、屋台の有志が「田島祇園囃子保存会」を設立、伝統を守ってきた。一方で後継者不足などため、録音テープで対応した時期もあったという。小椋さんは「盛り上がりに欠けた。しゃんぎりは地域の文化財。何とかしたかった」と振り返る。

世代を超え一つに

保存会は3世代にわたる。「チームワークを意識していききたい」と強調する。今は高校を卒業して町外に出たメンバーが、帰省した際に演奏できる環境整備に取り組んでいる。

しゃんぎりは田島地域の季節の移ろいを音で表現したものとされている。「全員で一つの音にして田島祇園祭を盛り上げたい。しゃんぎりを通じて郷土愛を育んでいく」と力を込める。

(富山和明)

南会津町の国重要無形民俗文化財「田島祇園祭」では、笛や太鼓、三味線演奏で「しゃんぎり」演奏が伝統的な雰囲気を出している。「田島しゃんぎり保存会」で会長を務める小椋勝郎さん(80)は「地域の文化を次の世代につないでいきたい」と太鼓をたたく手に力を込める。

「しゃんぎり保存会」のメンバーは、田島祇園祭のオ

▲ 9月24日 福島民友新聞掲載

小椋さんが、「しゃんぎり」復活に向け、動き出したのはどのようなことからですか？

小椋さんは、どのようにして太鼓演奏の腕をみがき、「しゃんぎり」復活に向けてどんな活動の場を広げてきましたか？

田島祇園祭は、どのような祭りなのか、調べ、まとめてみましょう。また、田島の音である「しゃんぎり」の演奏を、ネットの動画で視聴してみましょう。